

今年度の総会は五月九日（土）です

前のニューズレターでお知らせし、すでにご案内の手紙も差し上げていますが、今年度の開発教育協議会総会を五月九日（土）午後一時半から五時までの予定で、東京都新宿区神楽坂（最寄り駅は地下鉄東西線神楽坂駅、JR総武線飯田橋駅からも徒歩15分ほど）の神楽坂エミールで開催します。今年度の活動方針や協議会の運営について協議する総会ですので、ぜひ、会員の皆さんのご参加をお願いします。

世界の食糧生産の見通し

世界食糧機構（FAO）の見通しによると、1991年の穀物生産量は1,885百万トで、前年よりも4%の減、1991-92年の推計需要量を下回るだろうという。生産量の減少は主として旧ソビエト連邦とアメリカ合衆国で生じている。発展途上国では、アジアは減少気味だが、他の地域ではやや増加というところ。

その結果、穀物消費量が前年なみであっても、1991-92年度末の穀物次年度繰越量は工業国においてかなり減少し、世界の安定的な食糧供給に必要な在庫調整量の最低限度になるだろうという見通しである。穀物の在庫調整量は1976年以来の最低レベルになるだろう、と指摘されている。

アフリカのサハラ以南地域の穀物収穫の見通しは、一部の地域では改善が見越されるものの、国際援助を必要とする情勢は1992年においても続くだろう。たとえばスーダンでは穀物収穫量が増加すると予測されていたが、種子不足による作付不能で、一部には緊急援助が必要な状態がすでに生じている。エチオピアでも同じ事態が生じている。ソマリアでは中央部から南部にかけて、450万人が飢餓状態にあると報告されている。モザンビークは干ばつ地帯の住民と難民の190万人が食糧不足に陥っている。ザイールでは都会地の失業急増が食糧不足を引き起こしているという。

国連事務総長はアフリカの角地域（エチオピア、スーダン、ソマリア、ジブチ）へ、基礎保健・予防接種・給水・衛生・食糧援助を提供する国連機関合同の緊急援助アピールを、今年初めにだしている。（Development Forum Vol20 - No1とUNICEF NEWS Vol1 153から）

文字の読み書きができないということ

1990年の世界識字年以来、識字問題についての関心が高まったように見えるが、ユネスコの国際教育局では、読み書きできる世界（A Literate World）という小冊子を刊行して、世界の識字問題の早急な解決のための世論の動員と国際協力を訴えている。それによって識字問題の入り口を垣間見てみる。

世界人権宣言がもう40年以上も前に、すべての人間は教育を受ける権利をもつとしたにもかかわらず、西暦2000年において、アフリカの21の国で国民の40%が読み書きできないままだろう、と予測されている。その三分の二は女性のはずである。識字の問題は貧困の問題である。文字の読み書きができないというのは、社会生活や経済生活が満足に営めないということであり、読み書きができない人たちはできる人たちよりも、健康状態が悪く、貧乏で寿命が短いということになる。裏を返せば、文字の読み書きができるようになるというのは、自分がおかれている状態を認識し、それを

少しでも良くしていこうとするようになることである。読み書きできるようになるのは、政治・経済・文化そして人間としての権利を自分のものにする道につながる。

現在、世界中で135百万の児童が就学していない。その60%以上は女子である。人口増加率が高く、貧しい発展途上国では、増える就学年齢層に対応するだけの学校施設や教師を配置することができない。そして就学しない子どもたちが、読み書きのできない大人になる。一般に五年は継続的に学習を続けなければ読み書き能力は身につかないといわれているが、学校へ行っても一、二年で退学してしまったり、落第を繰り返す児童が多い。中退する児童の大部分は読み書きのできない大人になるだろうし、落第する児童はそのことによつて他の児童の就学を阻み、教師のエネルギーを無駄にしていることになる。中退や落第の原因には、貧困・親の無理解・生活とかけ離れた教育内容、などがあげられる。

どこまで増えるか 地球の青年人口の動向

前の号のニューズレターで、青年人口の動向を紹介したが、今度は青年人口の増加に加えて高齢人口の増加の話の紹介。

国連人口基金の世界人口予測で、2025年には人類が百億人を超えるだろうという紹介記事が、四月末の新聞に取り上げられていた。一般には人口の絶対数の増加が問題にされているが、日本が当面している人口の高齢化の問題が、世界的な規模で進行することもゆるがせにできない問題である。

国連の人口基金によると、15歳から24歳までの青年人口の総人口に対する割合は、1985年の19.5%から2025年には15.8%になるだろうとされている。これは構成比率の低下であって、絶対数はまだまだ増加の一筋を辿る。これに対して60歳以上の高齢層の比率は、1985年の8.8%から14.3%にまで上昇する。実数でみると、1985年には青年人口が5億人も高齢人口よりも多かったのが、2025年にはほぼ同じくらいの人口数になるということ

である。2025年には青年人口13億6千万、高齢人口12億と予測されている。工業国では人口の25%が高齢者層だし、発展途上国でも12%はそうなるだろうということである。

人口の絶対数が急速に増加していくのに加えて、労働力人口に依存する高齢人口の急速な増加は、どういう結果を人類の社会にもたらすのだろうか。まさに不透明な人類の未来である。

こんな数字に気がついていませんか

昨年来の世界の変動で、世界各国の統計順位が少し変わってきています。たとえば国土面積。長中退する児童の大部分は読み書きのできない大人有する国とされていました。しかしソ連邦の解体で、世界最大の国土をもつのはロシアになりました。17,075,400km²。

中国が新しい測量結果をもとに、国土面積10,464,039km²で2位となり、2位だったカナダと入れ替わりました。4位アメリカ合衆国から8位アルゼンチンまでの順位は同じですが、9位にはかつてソ連邦の一部だったカザフスタンが位置しています。そんな変動で、日本は今までの56位の国から、60番めに大きな国土をもつ国とされました。西ドイツは70位だったのですが、東ドイツと合体して57位になっています。

人口でも同じような順位の変動が見られます。ソビエト連邦は昨年まで世界第3位の人口大国とされていましたが、その解体のせいで、アメリカ合衆国が第3位になりました。1位はいうまでもなく中国です。ロシアが第6位になりましたので、日本の順位は第7位で変わりません。一年のあいだにナイジェリアがパキスタンを抜いて第8位になりました。日本もすぐ抜かれるでしょう。2年ほど前は西ドイツは13位、東ドイツは49位だったのですが、今ではドイツは12位になっています。

地球上の面積を人口で単純に割ると、1km²あたり36人が住んでいるということになるそうです。しかし現実は大違いです。面積1km²あたり、ホンは5415人、シンガポールは4887人、バングラ

デシュ806人、台湾572人、韓国437人とアジア諸国の窮屈ぶりが目立ちます。その次によやくオランダが顔をだし、日本はその次、第7位で1km²あたり329人です。

国土と総人口ともに大国であるロシアは1km²当たりの人口が9人不足で世界第92位、アメリカ合衆国は27人で第73位です。

もう一つ、車一台当たりの人口を紹介しておきます。乗用車、トラック、バスすべてを含んで車一台当たりの人口数です。1位はサンマリノで1台当たり1.1人、3位がモナコで1.4人、4位アンドラで1.5人、5位リヒテンシュタイン1.6人というように、上位はヨーロッパの小さく豊かな国の名前があがってきます。そしてアメリカ合衆国は1台当たり1.3人で第2位です。カナダが1.7台で第6位です。日本は1台について2.3人で17位となっています。

これに対して、車1台当たりの人口がもっとも多いのはバングラデシュで、1220人です。中国は270人に1台、インドは225人に1台、パキスタンは159人に1台というように、アジア諸国の車の少なさが目立ちます。車が人間にとって文明の利器であるならば、この差はどうやって埋められるのでしょうか。資料はAsia Weekからとりました。

お知らせとご案内です

§ 東京YMCAの国際理解講座

東京YMCAでは5月8日からの各金曜日午後7時から、新宿区高田馬場の山手YMCAで「ヒト・モノの往来にみる日本とアジア第III期、モノの往来」を主題に国際理解講座を開きます。参加費各1,000円。問い合わせは03-3202-0321の山手YMCAまで。

§ アジアの青年と合宿セミナー

青年海外協力協会は、マレーシア（8月、東京都内）、フィリピン（9月、千葉県）、中国（11月、東京都内）の青年を迎えて2泊3日の合宿セミナーを企画しています。経費は協会が負担しますので、参加希望あるいは関心のある方は、東京都港区南麻布5-10-24第二佐野ビル702の青年海外協力協会までお問い合わせ下さい。電話は03-3446

-3651。

§ シャプラニール20周年記念絵はがき

シャプラニール=市民による海外協力の会の20周年記念事業の第一弾として、バングラデシュの自然と人間を描いた河野一平のカラースケッチ、吉村繁の写真による十枚一組の記念絵はがきができました。一組1,000円で、収益はシャプラニールの活動資金にあてます。送料は事務局負担ですので、電話で03-3202-7863に申し込んで下さい。

§ 論文と研究プロジェクト募集

国際協力推進協会では、開発教育や開発協力についての研究論文や研究プロジェクト、あるいは市民活動プロジェクトを募集しています。特選論文には100万円、入選プロジェクトには50万円の交付金ができます。締切は6月15日。申請書類の請求やお問い合わせは東京都港区虎ノ門1-23-7第23森ビル内の国際協力推進協会まで。

§ 「夢のバスにのって」16mmフィルム貸出し

日本ユニセフ協会推薦の1989年ベルリン国際映画祭ユニセフ審査委員会賞授賞作品「夢のバスにのって」カラー16mm、1時間38分もののフィルムを貸し出します。作品はペルーでつくられたもので、首都リマのスラム街に住む12歳の少女のたくましく生きる力を描いています。貸し出し料金は一日80,000円に消費税、梱包料、送料が加算されます。問い合わせを東京都中央区京橋1-6-13アサコ京橋ビルのシネセゾン第二営業部まで。電話は03-3567-1203。

§ 大阪・アジアスカラシップ募集中

大阪国際交流センターは、大学や大学院でアジアを研究している方や国際交流団体などで一年以上国際交流や協力活動に従事している方（いずれも35歳未満）による、一年以内のアジア諸国の研究機関や大学、国際交流機関や団体における研究・研修活動に対して、一人300万円以内で、5人まで、奨学金を支給します。受給者の居住地は問いません。5月30日までに所定の応募書類で申請し、書類審査と面接で決定します。お問い合わせは大阪市天王寺区上本町8-2-6 大阪国際交流センター企画課へ。電話は06-772-6844。

協議会事務局から

★ 第55回理事会

3月13日の夜に開催し、総会提出の活動方針と予算案を審議した。

★ 91年度第10回運営会議

3月11日の夜に開催し、熊本と松山のセミナーについての報告を聞き、情報センター、研究集会、総会準備などについて意見を交わした。

★ 「第三世界の開発問題」あっせん

事務局は古今書院と提携し、同書院の新刊「第三世界の開発問題」(M.モリッシュ著 保科秀明 訳 定価3000円)を、定価の一割引で協議会会員にあっせんしている。原著はイギリスの中等教育終了資格試験用の教科書で、開発問題を総合的に

理解するための格好の入門書である。原著の刊行年が1983年なので、最近の展開は触れられていないが、基本的な開発問題はすべて含まれていて、事例研究や学習課題の提示など、学習の進め方にもヒントがだされている。また訳者も新しい統計資料を付け加えており、世界の開発問題学習のすぐれたテキストとなっている。イギリスでどういふ開発問題の学習が中等学校で進められているかを知ることもできる。

注文の方法は、同書院作成のはがき(1月に会員の手元に届けている)で注文すると、会員の手に本が直接届けられ、会員が定価の一割引の料金を振り込むと、協議会にも定価の一割が手数料として入る仕組み。問い合わせは事務局まで。

【新入・継続会員】(敬称略, 受付順, 2月26日~4月23日)

<新入会員>

佐藤百子(秋田) 堀場和子(神奈川) 田上喜美(宮城) 瀬川智子(東京) 北九州YMCA(福岡)
佐野淳也(愛知) 浜田麻利江(神奈川) 後藤まゆみ(大阪) 国生美南子(千葉) 森本栄二
(東京) 滋賀YMCA(滋賀) 姫路YMCA(兵庫) 青年海外協力隊神奈川OB会(神奈川) 小室貴一
(東京) 永田佳之(東京) 鈴木洋二(福島) 戸澤由佳奈(神奈川) 岡 和子(宮城) 本多
亜紀子(東京) 野平晋作(東京) 中野真也(山口) 星野三佳(神奈川) 薄井典子(神奈川)
西野桂子(東京) 星野亜紀子(神奈川) 杉本由美子(東京) 竹内伸子(愛知) 松尾光雄(大
阪)

<継続会員>

鈴木寛一(東京) 田淵五十生(奈良) 大阪YMCA国際文化センター(大阪) 山崎正気(神奈川)
河合千尋(大阪) 福田 菊(京都) 加藤富子(愛知) 八木沢千枝子(青森) 田島伸二(東京)
石井良重(東京) ロニー アレキサンダー(兵庫) 岡田純爾(岡山) 木村真吾(神奈川) 嶺
井明子(東京) 上岡直子(USA) 黒瀬義機(東京) 熊本YMCA(熊本) 寺尾明人(東京) 東
京YMCA(東京) 川端 勝(大阪) 吉永 宏(東京) 北村暁晴(東京) 栗野真造(大阪) ア
ンセルモ マタイス(東京) とちぎYMCA(栃木) 神戸YMCA(兵庫) 川村千鶴子(東京) シャ
プラニール=市民による海外協力の会(東京) 山西優二(東京) 長尾譲治(神奈川) 草地賢一
(兵庫) 秋尾晃正(東京) 岩佐ゆかり(東京) 川崎史人(東京) 金谷敏郎(埼玉) 斉藤
博(熊本) 立柳 聡(東京) 田村和風(埼玉) 広瀬和義(埼玉) 水野篤夫(京都) 渡辺
良(東京) 二子石章(埼玉) 廣藤啓二(京都) 六角陽子(兵庫) 樋口信也(東京) 初岡昌
一郎(東京) 成田美雪(山梨) 中西珠子(東京) 出岡 学(東京) 小林孝男(宮城) 山口
昌郎(千葉) 望月浩明(神奈川) 江釣子真一(東京) 西岡尚也(京都) 羽田野彊(大阪)
馬越 徹(愛知) 原 真一(愛知) 真実一美(岡山) 日本国際飢餓対策機構(東京) 森田敏
彦(埼玉) 飯尾光子(兵庫) 田頭明子(東京) 豊田高広(静岡) 吉開 潔(千葉)

ニュースレターの紙面を次号から刷新します